

## クルーズサマリー

### 1. 航海情報

- 航海番号 KR18-12C
- 船舶名 「かいいい」
- プロジェクト名：南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト
- 航海名：南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト 海域津波履歴研究
- 首席研究者 [所属機関名]：金松敏也 [海洋研究開発機構]
- 課題代表研究者 [所属機関] 小平秀一 [海洋研究開発機構]
- 研究課題名：南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト 海域津波履歴研究
- 航海期間：Sept. 7th, 2018-Sept. 21th, 2018
- 出港地～寄港地～帰港地：JAMSTEC-JAMSTEC
- 調査海域名：九州東方沖
- 調査マップ

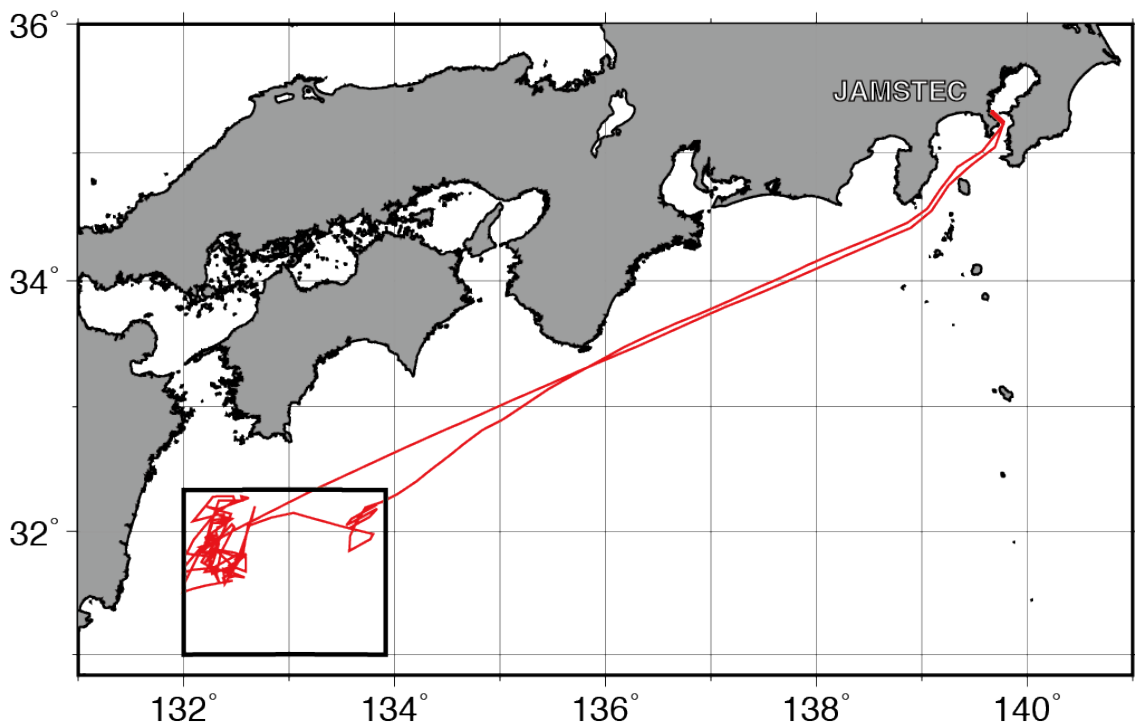


図 1. KR18-12C 構成図、黒枠の四角が調査海域で、図 2 に対応する。

## 2. 調査概要

南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト 海域津波履歴研究に資するため九州東方沖にて海底地質調査を実施した。海域は大きく1、足摺沖、2、大淀海盆、3、九州大陸棚縁辺に分けられた(図2)。2、大淀海盆および3、九州大陸棚縁辺で主に調査した。本海域は、ほとんど調査記録がなかったため、サブボトムプロファイラーにより地層の発達状況を詳しく調査した。大淀海盆では海盆の中央にのみ産する一番最近の地層が確認でき、そこで4回の採泥を実施した。岩相は薄い砂層を挟在する半遠洋性泥であった。最下部は火山灰層で採泥器の貫入が止まっていた。九州大陸棚縁辺では、サブボトムプロファイラーの調査の結果、頻りに砂層が挟在する場所は限られている事が分かった。その場所で5回の採泥を実施した。本航海を通じて9本の柱状資料を取得した。今後、分析を実施し砂層に頻度を明らかにし、地震履歴を考察する。

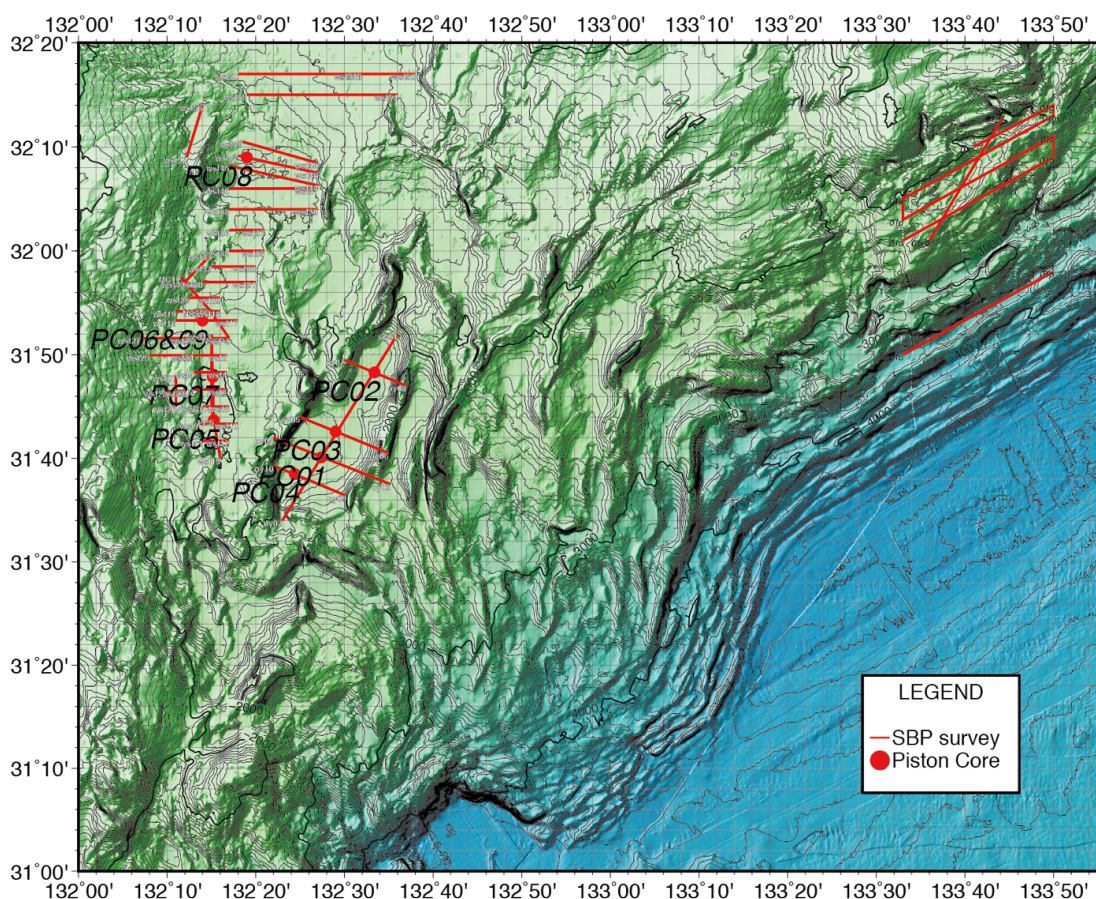


図2. KR18-12C 調査海域: 赤線: SBP および MBES 測線. 赤丸: 採泥点